

1. 授業のねらい・概要

今日、テレビや新聞などで環境問題が報道されない日はないと言ってもよいほど、私たちの周辺には「環境」の話題が溢れている。複雑化・多様化の様相を強める環境問題に対して、国際的な取り組みの難しさを抱えながらも、多くの人々が解決に向けての努力を続けている。

環境問題については、個人・企業・行政・国・世界のそれぞれのレベルで対策を講じる必要があるが、先ず人々が環境破壊の実態と解決の重要性を認識しなければならない。企業レベルでは、企業活動の環境に及ぼす影響が厳しく問われ、今や環境対策事業自体が市場規模のビジネスとして注目されている。ビジネス情報を学ぶ学生諸君には、将来の仕事でも何らかの関わりがある環境問題について、積極的に関心を持って学修してもらいたい。

この科目では変化の速いテーマが多いので、過去に発生した重大な問題とともに最新の話題を提供する。その内容は多岐にわたるが、グローバルな環境問題を中心に、現況と対策を紹介しながら、問題の本質に迫りたい。

2. 授業の進め方

講義形式の授業ではあるが、受講生が考える時間を多くとりたい。A V 器機を活用し、写真・各種データ資料等を提示しながら、視覚的に理解しやすいように授業を進める。

3. 授業計画

1. 環境問題と環境科学	9. 森林の減少・熱帯林の破壊と砂漠化
2. 宇宙のごみ問題・オゾン層の破壊	10. 野生生物の減少と絶滅①（原因・生態系の破壊）
3. 地球温暖化①（歴史と原因）	11. 野生生物の減少と絶滅②（生物多様性の保全へ）
4. 地球温暖化②（影響と対策）	12. 資源とエネルギー
5. 大気汚染	13. 原発事故と放射能汚染
6. 酸性雨	14. 開発と災害
7. 河川と湖沼の汚染	15. 地球環境の保全
8. 海洋汚染	

4. 到達目標

環境問題として、今どのようなことが問題になっているのか、過去の経験を活かしてどのような対策を立てればよいのかなどの課題について、受講生自身が考察できる力を身に付けることを目標にする。

5. 準備学修に必要な時間、またはそれに準じる程度の具体的な学修内容

テレビ・新聞などのメディアを通じて、環境関係の情報を常に吸収することを習慣化してもらいたい。また、地域の事例を理解する際には、地理的な知識が必要である。他に生物や地学など、高校までに修得した理科の知識についても復習しながら履修することが望ましい。

6. 成績評価の方法・基準

成績は、試験得点と受講態度をもとに評価し、A～C評価の受講生に単位を認定する。試験得点が基準値以下の場合、授業・試験の規則やマナーを守らない場合にはD評価となり、単位は認定されない。

7. テキスト・参考文献

テキストは特に指定しない。参考文献は授業時に随時紹介する。地名の確認のために、地図帳（世界）があるとよい。

8. 受講上の留意事項

授業中には、ノートを取りながら理解するように努める必要がある。授業内容に関して生じた疑問点は、①後で自分で調べる、②担当教員に質問するなどの方法で解決してもらいたい。